

令和5年度 社会教育委員会（第5回） 議事要旨

◇日 時

令和6年1月30日(火) 午後7時～午後9時

◇会 場

生涯学習センター 2階 学習室2

◇出席者

【委員】小田委員長、杉山副委員長、伊丹委員、櫻井委員、小澤委員、大野委員、大森委員、市川委員、渡辺委員、井草委員、志田委員、高島委員
【事務局】古谷生涯学習課長、渡邊主幹、関野主任

◇会議次第及び内容（○は委員の発言）

1 開 会 （事務局）

2 委員長あいさつ

先日は市民活動の集いの運営から片付けまでご協力いただきありがとうございました。無事終了し、後ほど報告でも触れるかと思いますが、とてもいい感じではなかったかなと思っています。今日は前回もお話をしました提言をどうしていくかと言う話について、事務局とも少し詰めてきた内容を皆様におはかりをして提言内容が決定するまで進めたらいいなと思っています。ご協力をよろしく願います。

前回に引き続き臼井さん、来年の市P連の会長になる予定の方が傍聴と言うことで見えておりますので、よろしく願います。

3 報告事項

- ・各種委員会委員会の会議報告

特になし

- ・市民活動の集いの報告について

1/28 開催、51名参加。

- ・演題「なぜ、地域と学校が連携・協働するのか

～コミュニティ・スクールの導入を通して～

社会教育士（埼玉県所沢市立松井小学校 校長）市川 重彦 氏

- ・演習「地域学校協働活動のアイデア」（グループ協議）

- ・令和6年度放課後子ども教室「放課後学習支援事業」について

事務局から、次年度のすそのん寺子屋事業の事業概要、年間スケジュール等について説明した。

- ・令和6年度人づくり・地域づくり講座について

今年度は歴史雑学講座を開催した。他の人づくり地域づくり講座の開催ができなかった。次年度は、社会教育委員の方に相談しながら進めたいと考えている。

・令和6年度教養講座について

配布資料の講座一覧のとおり来年度も本年度のメニューに、利用者から要望があったパン作り講座を加えて実施する予定。

(協議事項は委員長が進行)

4 協議事項

・社会教育委員会の今期の提言について

◆事務局より、前回のグループワークで出た意見をまとめたものを報告した。

内容

□地域の団体

子ども会

⇒会員減少、市子連に未加入の子ども会は相談先がない、コロナで子ども会衰退、コロナでやらなくていいになり、つながっていかなくなった。

婦人会

⇒婦人会の存続が難しくなっている（会員不足、高齢化、役員のなり手不足）

自治会

⇒多様な価値観、少子化・高齢化の進展、地域のつながりの希薄化を背景に地域力が衰退している。一方、青年団の立ち上げなどこれではいけないという人が集まって変えようとしている人がいる

スポーツ

⇒スポーツ大会参加チームの減少、市をまたがった大会開催数が減少している

その他

⇒文化芸術活動の減少、新しい団体の立ち上げもみられる

□学校再編後の地域づくり

⇒学校再編後の地域学校協働活動はどうなるのか（地域により特徴がある）、地域と学校の関係が変わる

□PTA

⇒PTAの任意加入による会員減少、親は子どもが学校に入っている間の関係で任期1年（無難に過ごす）、継続する体制なし。

組織改革（できる人がやるという体制づくり、会費を抑える）が必要。PTAは地区の一番若い人が関わる会で最大の社会教育団体（次の役につながる。地域を作っていく。）、つながりづくりが必要である。

□部活動について

⇒部活が成り立たなくなってきた

- ・子ども（入りたい部活がない、チームができないという状態、地やりたい文化
部がない、合同チーム、送迎）
- ・指導者（働き方改革、顧問の先生の負担、部活動をやりたい先生、仕事として
指導する人（報酬あり））
- ・地域移行（文化協会、土日の地域の大人の団体に合流する）、地域へ移行するに
は？

□コロナ後の活動再開について

⇒コロナ後の地域の活動、行事の復活が進まない（もともと強制）、自主性、思い
を持っている人を引き合わせる

□給食について

⇒給食無償化、できなくても他に何かないか

◆事務局より、提言案を「家庭教育支援事業の推進について」とし、委員の考えを伺い
たい旨伝えた後、その理由を説明した。

家庭教育支援に関し、これまでPTA活動の利用が想定されていたが、家庭教育学級
の方法が変わりつつあり、さらに任意加入化により今後の想定も難しく、新たなフ
ィールドづくりの必要性を感じている。このあたりのことで社会教育委員の皆
様のご提言をいただきたい。

背景・課題⇒

子どもの学びや育ちを家庭を含めた社会全体で支援することが求められている

約7割の保護者が子育てに悩みや不安を抱えている

地域において子育ての悩みを相談できる人がいる保護者は3割

不登校の増加、家庭の孤立化による児童虐待のリスク増

個々の家庭の頑張りや努力だけでは対応できない

家庭教育とは⇒父母等の保護者の自主的な判断に基づいて子に行われ、あらゆる教育の
基盤となるもの。

家庭教育支援とは⇒保護者が家庭教育を行う上で必要となる学びを支援するために各自
自治体において保護者に対し、学習機会や情報の提供等を行うもの

○委員 PTAとしては家庭教育委員長がいて家庭教育の支援をしなければならない
が、人数が減っておりできてない所はある。またこの中に書かれている習慣・
マナーの基準が多様化しており、これが普通だよと言い切れる根拠が難しいと感
じている。

事務局

この提言で進めて頂けるのであれば、課題とか必要なことなどをまとめていくこ
とになるので、その時にご意見を頂ければありがたい。

○委員長 この提言について、立場を置いてフラットな情報交換をして欲しい。
雑談でよいので、どういう事が実際にできるのか、難易度は、本質は等。自身の
経験から、家庭教育支援、学習機会や情報の提供ですが、以前からそうであった
様に学習機会に参加する層、情報を受け入れる層の支援が必要ではなく、どう情

報を受け入れるか、どう学びの場に来られるようになるのかが重要であり、本当に届けたいのは消極層（無関心層）である。興味のない状態からある状態に向ける、声を掛けられる様にする等が第一段階であり、その先に学習機会の提供や情報の提供があると思っている。無関心層（消極層）がいかにかかわれるようになるのかが重要であり、それを踏まえて議論して頂きたい。

これからの活動に向けてグループ（3人）での自己紹介3分/人
テーマについての意見、アイデアを出して欲しい。この時間が重要。

◆グループに分かれ意見交換をした後、全体で意見、アイデアを出し合った。

事務局

家庭教育は大事、地域みんなで子どもを育てようの中では親の関わりも重要であり、届けたい人に届ける手法は難しいが、1つとして父親に関心を持ってもらうために企業にアプローチして会社で時間を取ってもらい情報提供をする方法もあると思いました。

○委員

子供が大きくなっているので、子どもに携わることは少ないので家庭内の問題については良く分からないが、地域では、どんどん焼きに参加する子ども会の人数は少なくなってきたと感じた。今ではお飾りを公民会に持ってくるようになり、昔は櫓を組み大規模に実施していたが、そのようなこともなくなり、参加する大人の数も少なく(数十名位)なっている状況である。地域行事を簡素化していく傾向にある様に思う。子供に対する親の具体的な悩みを教えて頂き、それに沿った形で対応できるのではないかとと思っている。

○委員

これまでの話をしていく中であまり構え過ぎると人が集まらないのかなと言う感がする。色々話しを聞いていく中で消極層が困り感を感じているのかという感もあり、そこを引っ張り出すのもどうかという感がある。地域で育てるという意味では、大きなお世話の近所の叔父さん叔母さん感覚での周りのサポートの教育でもよいとも思うし、大きなお世話が少しでも家庭へ入っていったなら、一歩先に進む事ができると感じた。

事務局

私は、言葉に教育というのを使わない方がよいと感じた。

家庭教育自体で考えると大きなお世話だろうという事になるのでフランクで付き合いやすい形で持っていくのがいいということから始まった。ではどうやって消極層に届けるのかという良い策がなく、皆様の話の中で企業に働きかける、イベントの中で気楽に出かけるところを作ってそこに仕込んでいく、生活全般の中に突っ込んでいくしかないと感じた。

○委員

自然事業の中で堅苦しい教材だと来ないので、子どもを含めた親子ともども参加できる事業などの柔らかい形にしてやった方がよいと思う。しかし、消極的な親御さんは出てこないで、小学校の例を考えた場合には父兄参観には出てくるのでその後の懇親会の機会を使ってはどうかと思う。

○委員

子供達にとって大切な事、基本は家庭の中にあると思う、傍から見ているという方に色々な形でアプローチをしても伝わらない。そういう方々にどの様にアプローチしていけばよいのかの手法が難しい。最後は企業とかイベント的な

所はあるが子供が何かをして楽しむ、それが親に伝わり一緒に出てくるという流れが出来ればそれが理想かなと思うが、具体的なことになると思う。

○委員

2つ意見があり、1つは家庭教育支援の中で無関心だった消極層を具体化してそれは一体何なのか、集まりや教育に興味がない、コミュニケーション自体がいや、外国人の中で言葉が分からない人等、内容を具体化して問題に対して直接アプローチできるような分析が必要。2つ目は無関心層や消極的層に対して地域の中で一緒に取り組む推進リーダーの育成が必要。これは市としてだけでなく地域からもアプローチする形が必要。

○委員

社会でどう暮らすか、参画するかということで家庭教育が大事だと思う。学校だと先日参観日があり、6年生の保護者に対し、誕生学を通して、子供だけでなく親御さんの心にも響く授業ができたが、社会教育の中でどうやっていくのかとなると、なかなかそういう所がないと参加できないという事があり、相談できる人がいないという事は地域との繋がりも薄いと思うと今の学校や地域の協働活動を進めていくと、子供が地域と繋がってそれが段々親の繋がりなるのかなと考える。

○委員

中で使う情報としては家庭教育で良いと思うが、外に出す場合には家庭教育と言うと抵抗がある。届け方だが、生涯学習課だけでは無理だと思うので、他（生活支援等）と一緒に進めていかないと届かないと思う。

○委員

提言案を見て確認しておいた方が良いと思うのは、どういうことで困っているのか、相談出来る人がいないので困っているとか、PTAの任意化とあるが実際4月から始めた場合にどこにどれだけの方が残るのか等この方向で行くのであれば把握しておいた方が良い。

○委員

家庭教育支援の消極者層に対しては宝くじで1億円当たるとか難しかったら具体的な特権を与え1日市長室でゴロゴロできるとか、そういう特権を与えると以外とくるのではないかなと思った。家庭教育の所で、学習になってしまうかもしれないが読み聞かせも良いと思う。

事務局

グループの中で関心のない人にどうやって来てもらうのかは今の行政の中ではなかなか難しい。決め打ちしても欠席されるかもしれないし、いかに関心のない人を呼び込めるのかを考えていかないといけないが、解決策もなく不安に感じているが考えていきたい。

○委員

子供が楽しい環境にいる事が前提にあるので、家庭教育支援も気軽に楽しい環境にあるのが良い。先に学級懇談会の話もでたが、親と子で一緒にできる何かがあれば良い。生涯学習課をからめてどうやればいいのか、難しい所はあるがやっていくのも良い。子供の希望（やりたいこと）の引き出し方もあるし、親も同様だと思う。家庭教育支援にしても同様で、言葉は悪いが裾野市の中でボランティアの格差はある様に思えるので、子どもが受ける環境が異なる事をなくするように持っていくようにしないと市内の子供達が楽しいと思うのに繋がらない。そういった意味でも家庭教育支援もひもづけられたら良いと思った。

○委員

3人の母親で東地区の20年前に小学生の親をやっていた。その時家庭教育学級に参加するのは時間的余裕がある母親達で、その集まりだけで終わっていた。当時は東小のおやじの会があり親子で自由に参加できる色々なイベント（鱒釣り大会、餅つき大会等）が開催された。しかし来る人は来る、来ない人は来ないで終わっていた。無関心の人を仲間に入れるには子ども会が一番良いのではないかと思う、親と子がセットで家や顔が見えてよかった。これが自由参加になった辺りから学校に関係のない人は関係がなくなってきたと思う。

○委員

無関心層の人たちをいかに引き込むかと考えた時に、一番集まるのは授業参観で、働いている親も来られる。その後、学級懇談会や講演していたが、それでも帰ってしまう親はいるので、そこで親子で一緒に遊べる何か（ドッジボール等）があつて、回数を重ねていくと知り合いもできて多少なりとも本音で話合える人も見つかる事もあり、そういう所から底辺の話ではあるが、広めていけるのではないか。

○委員長 今出た意見は事務局がまとめ、次回の社会教育委員会で報告すること。

5 その他

・第6回会議の日程について

3月19日（火）19:00～ 生涯学習センター2階学習室2において開催

6 閉 会（杉山副委員長）